

現地理解教育を核とした総合単元開発

— ローマの時間（総合的な学習の時間）の実践を通して —

前ローマ日本人学校 教諭

沖縄県那覇市立識名小学校 教諭 工藤直也

キーワード：現地理解、総合的な学習の時間、総合単元開発、地域探検

1. はじめに

「ローマは一日にして成らず」まさに、この諺を肌で感じさせる石畳の道、数々の遺跡にあふれているローマの街。ローマ日本人学校では、「ローマの時間」と称し、これらを学習材とした総合的な学習の時間の単元開発を行ってきた。ローマの歴史的建造物や遺跡などについて詳しく調べ、ガイドブックとしてまとめたり、調べたことを元に、子どもたちが観光ガイドを務めたりと、どれも充実した活動となった。また、ローマの時間では、歴史的な内容だけでなく、イタリアの食文化にスポットを当てた単元開発も行ってきた。パスタやチーズなど、その種類や調理方法は豊富で、調べても調べ尽くせないほどである。食文化にスポットを当てた学習では、地元の人々に伝統的な料理を習ったり、話を聞いたりするなど、人と人とのつながりを大切にした単元開発も行ってきた。しかし、一方では歴史や食文化について調べる活動が、マンネリ化し、受け身の学習になってしまうという課題もあげられてきた。そこで、「子ども自身がイタリアを知る・知りたい」と感じるものとなるよう工夫を加え、教科や特別活動、道徳の時間との関連を視野に入れた単元開発を進めてきた。

以下に示す実践事例は、上にあげた課題を踏まえ、3、4年生のローマの時間の単元開発を行い、「とびだせ！まちたんけん」として1年を通して活動したものである。3、4年生の発達段階や教科の学習内容を踏まえ、身近な地域を出発点とした学習活動の展開を工夫したものであり、今後の3、4年生のローマの時間の単元開発の方向性を示したものであると考える。

2. 活動の実際

(1) 単元開発にあたって

3年生、4年生はこれまでに、社会科や生活科で学校周辺の地図作りを行ったり、地域散策を行ったりしてきている。しかし、児童の入れ替わりも多く、それぞれの活動を経験していない児童もいる。そこで、この活動の導入において、これまでの体験と重なる活動「地域散策」を設定した。そうすることで、これまで本校に在籍し地域について少し知っている児童も、そうでない児童もスムーズに活動に取り組めるものと考えた。

散策を行うにあたり、そこから先の活動の展開を考慮し、地域にある店やそこで働く人々に着目させた。店で売られているものに注目することで、それらの品物がどこからやってきたのか、どのように作られているのかということ考えさせ、学校周辺からその周りの広い地域へと目を向けさせていった。そのような活動を通し、自分たちと地域のつながりを実感させることができるのではないかと考えた。また、働く人々に目を向けさせ、働く人の思いや願いを知ることで、人と人とのつながりを実感することや、現地を理解することにつながるのではないかと考えた。

(2) 単元のねらい

- ①学校周辺の地域にでかけ、見学や体験活動を行うことで、自分たちの住んでいる地域を理解する心を育てるとともに、イタリア（ローマ）のよさを感じ取ることができる。（現地理解・生き方）
- ②主体的に活動を行い、自ら課題を見つけ問題解決することができる。（問題解決能力）

- ③見学や体験活動を通して、自分の思っていることを分かりやすく伝えたり、表現したりする態度を育てる。(表現力・コミュニケーション能力)
- ④体験的な調査活動、発表の活動を通して、コミュニケーション能力の育成はかる。(現地理解・コミュニケーション能力)

(3) 活動の概要

①オリエンテーション

今年度のローマの時間についてのオリエンテーションを行った後、初めに学校の周辺の様子について児童に想起させた。昨年度の社会科や生活科の活動を元に考えることができる児童、ローマに来たばかりで周辺の様子が全く分からない児童、それぞれであったが、カセットマッティ通りには店が並んでいたり、バスが走っていたりすることは、ほとんどの児童が認識していた。

実際に地域散策を行うに当たっては、昨年度までに多くの児童が訪れたことのある近くのメルカートに的を絞った。そうすることで、メルカートについてもっと詳しく知りたいという考えが児童からもでてきて、次の「メルカート探検」の活動につなげることができた。

②「メルカート探検」

<日時>平成18年5月23日(火)4校時(11:45~12:30)

<場所>ローマ日本人学校周辺(Via della Casetta Mattei)の市場(メルカート)

探検に行く前に、事前に行った地域散策のときメルカートにはどんな店があったのかを思い出させ、どの店でどんなことを質問するのかを考えた。メルカートには八百屋、肉屋、服屋、雑貨屋、乾物屋などがあり、それぞれの店で売られている品物の流通経路や保存の仕方の工夫、一日の売り上げや来客数などの質問があげられた。また、探検の時には質問をする店で買い物をすることとし、果物やあめ玉を買うときにイタリア語でどのように言ったらいいのかを事前に学んでからでかけた。探検の際には、3つのグループに分かれ、店を2つずつ回った。イタリア語が得意な児童をうまく生かしながら、互いに協力し合い探検活動を進めていた。

探検のまとめでは、質問して分かったことをグループごとに壁新聞にまとめた。普段何気なく見ているメルカートも様々な工夫があることや品物がさらに大きなメルカートから仕入れてくるということなどを学んでいた。

③牛乳工場探検

<日時>平成18年6月14日(水)8:50~14:00

<場所>ARIETE FATTORIA LATTE SANO S.P.A(Via della Viuratella, 165)

地域散策、メルカート探検を進める中で、学校周辺にはパール、お菓子屋、レストランなどがあることも発見した。それらの店で売られている品物について詳しく見ていくと、児童は、パールのジェラート、お菓子屋のケーキ、レストランのパスタやピッツァなどに関心が高いことが分かってきた。そこで、ジェラートやケーキなどには欠かせない牛乳に着目させ、牛乳がどこからどのようにしてやってくるのかを探検していくこととした。

ローマのスーパーなどでよく見られる牛乳のうちの1つの工場が学校からバスで行ける地域にあることから、その工場へ見学に行くこととした。事前に、質問したいことを用意して工場見学を行った。工場では、見学を案内する専門の係がいて、手際よく案内をしてくれて、児童もしっかりと見学をすることができた。探検のまとめでは、「牛乳ができるまで」「工場働く人について」「牛乳工場の歴史」「牛乳の栄養」「牛乳の種類」の項目に分け、グループごとに新聞にまとめていった。

牛乳工場探検では、牛乳の流通経路を知ることができ、牛乳がこれまで以上に身近な存在になったようであった。工場見学後も街で工場の車を見かけると得意気に周りのみんなに知らせる姿も見られるようになった。

④農場探検1(農場見学、乳搾りやモッツアレッチーズ作り体験)

<日時>平成18年10月4日(水) 8:50～15:00

<場所>FATTORIA SALVUCCI (サルブッチ農場 学校から30kmほどのところ)

牛乳工場探検のときの児童が出した質問の中に、「原料のミルクはどこから運ばれてくるのか。」というものがあった。受け答えの中で、実際にその農場を見学することも可能であるという話があり、その農場を訪ねるところから活動をスタートさせた。

農場を訪ねるにあたり、事前に質問を考え、当日聞いてみることにした。探検当日は、初めに農場の概要について説明してもらい、その後、牛についての説明を受け、乳搾り、モッツァレッチャチーズ作りを体験した。

児童は、300頭を超える牛はもちろんのこと、農場で飼っているイノシシやダチョウ、ウマなどに興味を示し見学していた。また、乳搾りやモッツァレッチャチーズ作りの体験も初めての児童が多く興味深く取り組む様子が見られた。

⑤とびだせ!まちたんけん発表 <平成18年度文化発表会>

農場探検1を終えた後、1学期に行ったメルカート探検、牛乳工場探検と合わせて3つの探検を文化発表会で発表する活動に取り組んだ。

メルカート探検、牛乳工場探検については、すでに活動のまとめをしてあったものを再構成する形で進めた。また、農場探検1については、活動のまとめを行った後、発表の構成を考えていった。

発表は劇形式とし、各活動についてまとめたことを元に、児童がシナリオ作りに取り組んだ。シナリオ作りにあたっては、自分たちが探検してきたことのうち、どこの部分を強調したいのか、見ている人とたちに何を知らせたいのかということ意識するように支援した。また、発表の段階では、声の大きさや、身振り手振りなどを工夫ししっかり表現できるように声をかけた。

この発表の活動をすることにより、それまでに体験してきたことや得た知識を再確認することができた。

⑥農場探検2(オリーブ収穫、オリーブオイル工場見学)

<日時>平成18年11月28日(火) 8:50～14:00

<場所>FATTORIA SALVUCCI (サルブッチ農場 学校から30kmほどのところ)

農場探検1で農場見学行った際に、農場には動物のほかにも多くの植物があることがわかった。また、農場では、それらを題材としたプログラムがいくつか用意されており、その中でも、イタリアの特産物であるオリーブに着目し活動を進めていくことにした。児童にオリーブについて聞いてみると、オリーブやオリーブオイルを口にしたことはあるが、オリーブの種類やオイルの絞り方など詳しいことは分からないという児童が多かったため、それらのことを中心に体験できるように計画を立て活動を進めた。

当日は、オリーブオイルができるまでの過程をレクチャーしてもらった後、オリーブ作りの初めの段階であるオリーブの実の収穫を体験した。オリーブオイル工場の見学では実際に使われている機械を目の前で見学することができ、オイル作りの詳しい行程を理解することができた。

探検後のまとめでは、見たり聞いたりしてきたことを文章や写真を使ってまとめ、それをワープロで清書する形をとった。ワープロ操作については、3年生、4年生それぞれの学年に応じた目標を設定し、コンピューター活用能力の育成高めることもできた。

(4) 考察

①情報活用能力の視点から

メルカート探検、工場探検、農場探検のそれぞれの活動において、事前に質問や知りたいことについてまとめてから探検に出かけ、探検のあとに新聞作りなどでまとめるという同じ流れで活動を進めてきた。そのことにより、児童は「情報収集の準備」「情報の収集」「情報の選択・処理」「情報の発信」という流れを身につけることが

できた。

「情報の収集」の段階では、人から聞くという活動が中心となった。各探検で児童が書いた探検メモを見ると、探検を重ねるごとに必要なことをしっかりとメモできる力が身についてきた様子がうかがえた。

「情報の選択・処理」の段階では、探検メモを元に、情報の取捨選択を行い、文章にまとめる力が身についてきた。初めのうちは教師側からのアドバイスも多かったが、回を重ねるごとにまとめるコツをつかんだようで、自分で最後までまとめることができるようになった児童も多く見られた。

「情報の発信」では、グループ新聞、個人新聞と新聞の形式をとってきた。新聞作りをする中で、新聞のレイアウトの仕方、見出しの付け方などを身に付けてきた。また、農場探検2のまとめでは、パソコンを活用し、ワープロ機能、写真の貼り付けなどの方法を身につけることができた。

②現地理解教育の視点から

「とびだせ！まちたんけん」全体の活動を構成していく上で、地域散策、メルカート探検、工場探検、農場探検がそれぞれ単独で存在するのではなく、互いに結びつくように考えた。また、身近な地域から、徐々に広い地域へと広がりを持たせるようにした。このことが、児童にとって自然な形で現地を理解することにつながったように思う。また、題材を牛乳やチーズ、オリーブなど身近であり、イタリアの特産物であるものにしたことで児童が興味をもって活動に取り組み、そのことが、現地理解に直接的につながったものとする。

③課題

「とびだせ！まちたんけん」のように地域素材を扱う単元の開発を考えたとき、一つでも多くの地域素材を取りあげることができるように準備をしておくことが重要な課題であるとする。そうすることで、年間カリキュラムのパターンがいくつかでき、年度によってローテーションしていけば、同じ児童が2年間続けて同じ活動をするということがなくなる。

また、各教科との関連について考えた場合、工場見学などについては、社会科との連携を図り効果的に活動を進めていくことを考えることも大きな課題であるとする。

3. おわりに

在外教育施設における現地理解教育は、各学校の核となる活動であるとする。ローマ日本人学校においては、1、2年生は生活科、3年生以上は総合的な学習の時間を中心として現地理解教育に取り組んできており、単元開発にあたっては、それぞれの教科や領域で身につけさせるべきこと、現地理解教育で子どもたちに感じ取って欲しいこと、学び取って欲しいことを明らかにしながら進めてきた。

子どもたちにとって、現地理解教育で学んだことは、大きな財産の一つになるものになるといえる。だからこそ、この単元開発にあたっては、学校全体として組織的に研究を進めていくことが重要であるとする。また、任期が2～4年間という短期間である教員が中心となり単元開発を進めていくことを考え、確実に引き継ぎが行えるような体制作りも、在外教育施設においては大変重要なものであるといえる。

この実践報告が、在外教育施設における現地理解教育を実践するにあたり、少しでも参考になればと願っている。